

2017年9月インターンシップ希望学生傾向調査

調査概要

【調査1:インターンシップ希望学生】

調査対象: インターンシップを希望する学生が実施した性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年7月22日～2017年9月24日

調査方法: Webによる受検

サンプル数: 985名

【調査2:社会人転職希望者】

調査対象: 転職活動において実施された性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年7月22日～2017年9月24日

調査方法: Webまたはマークシートによる受検

サンプル数: 1000名

調査目的: インターンシップを希望する学生の性格・価値観の特性を分析し、公表しています。この調査結果により、企業はインターンシップ希望者の特性を把握することができ、採用時のミスマッチを減らす一助となります。

調査結果

<インターンシップ希望学生・社会人転職希望者傾向>

インターンシップ希望学生は「変革性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」などが高い

インターンシップ希望学生は、「変革性」(変化を好む)、「意思伝達力」(考えを伝える)、「決断性」(決断が速い)、「理想と現実とのギャップ」などが高い結果になった。キャリアタイプ指向性では「自立」、「チャレンジャー」などが高い。同受検時期の社会人転職希望者に比べて「変革性」、「意思伝達力」、エネルギー量、「理想と現実とのギャップ」などは高く、「協調性」、「論理性」、「対人調和力」、「人付き合い」などは低い結果になった。

<インターンシップ経験有無別傾向>

インターンシップ経験有りの学生は「主体性」「論理的表現力」「競争性」「野心性」「仕事の負荷量」などが高い

インターンシップ経験が有る学生は、「主体性」(自ら動く)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「競争性」(相手に勝とうとする)、「野心性」(成り上がろうとする)、「仕事の負荷量」(多くの仕事量や責任ある仕事を受け入れる)が、インターンシップ経験が無い学生に比べて高い結果になった。インターンシップ経験が無い学生は、キャリアタイプ指向性において「私生活重視」、「安定指向」が高い結果になった。

<インターンシップ希望学生の男女別傾向>

インターンシップ希望学生の男性は「論理的表現力」「競争性」などが高く、女性は「持続性」「対人調和力」が高い

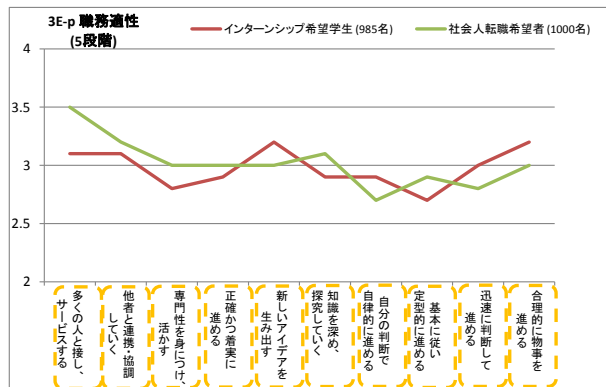
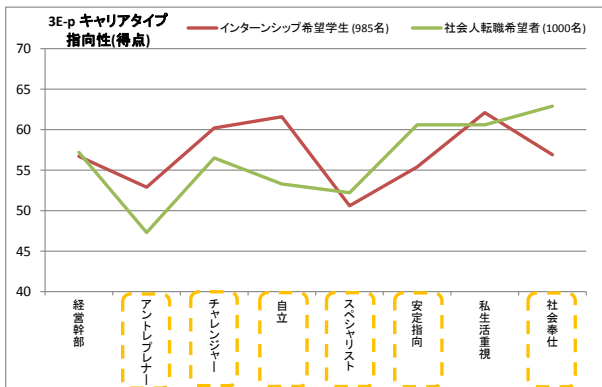
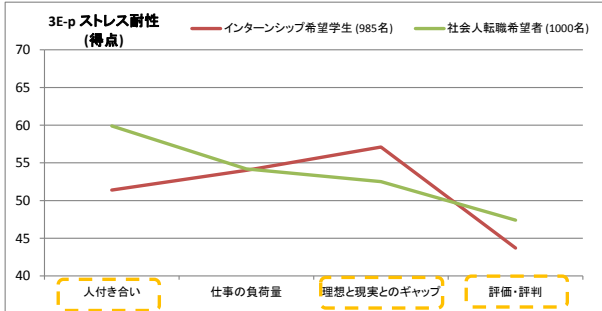
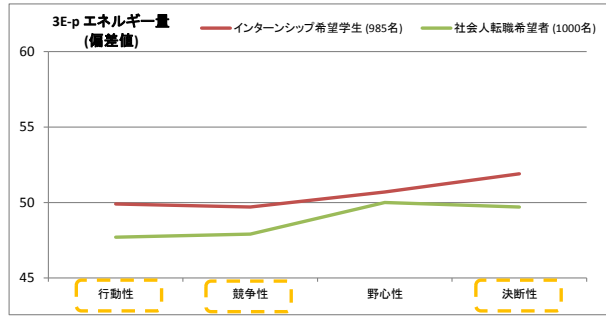
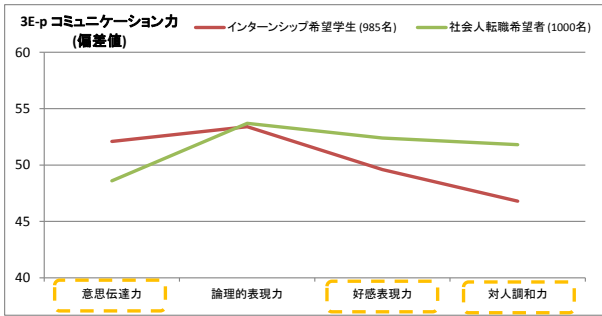
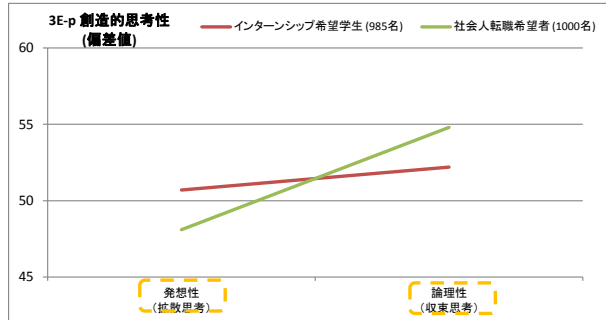
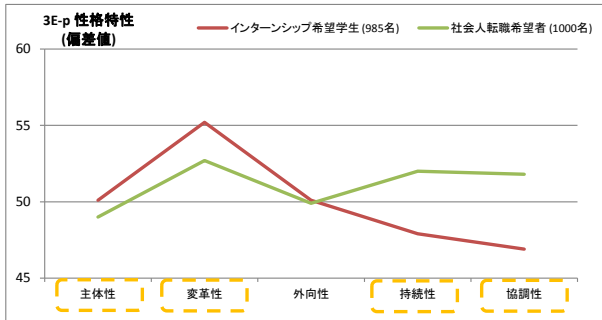
インターンシップ希望学生において、男性は「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「競争性」(相手に勝とうとする)、「主体性」(自ら動く)、「仕事の負荷量」、「経営幹部」、「アントレプレナー」などが女性に比べて高い結果になった。女性は「持続性」(粘り強くやり続ける)、「協調性」(周囲との調和を好む)、「対人調和力」(相手に配慮できる)、「私生活重視」、「安定指向」が高い結果になった。

<インターンシップ希望学生の文理別傾向>

インターンシップ希望学生において、文系は「経営幹部」、理系は「スペシャリスト」などで差がみられる

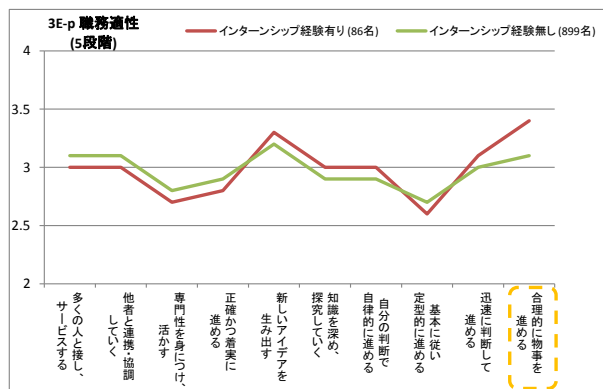
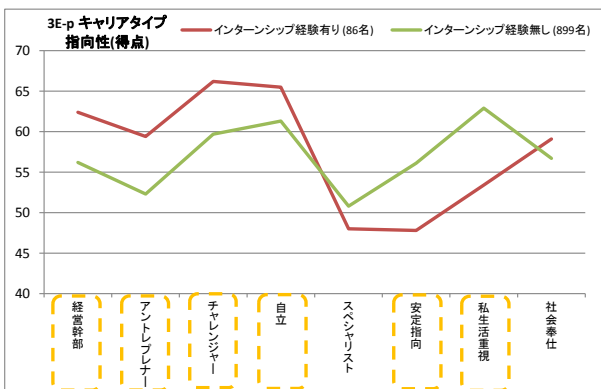
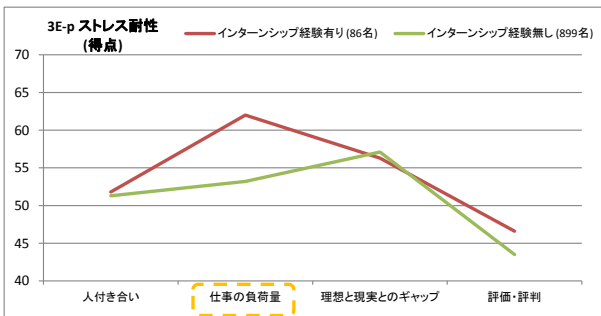
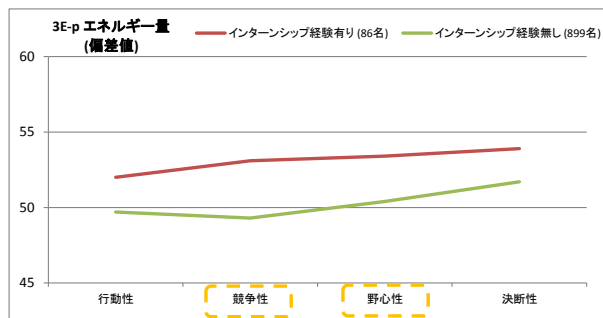
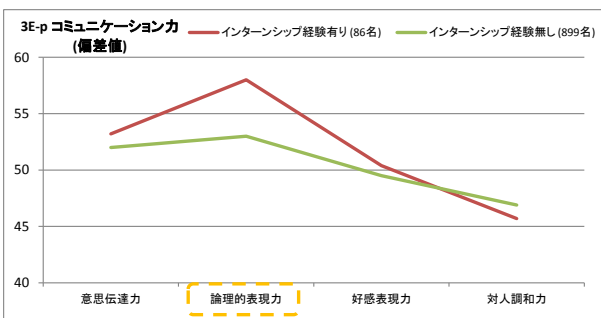
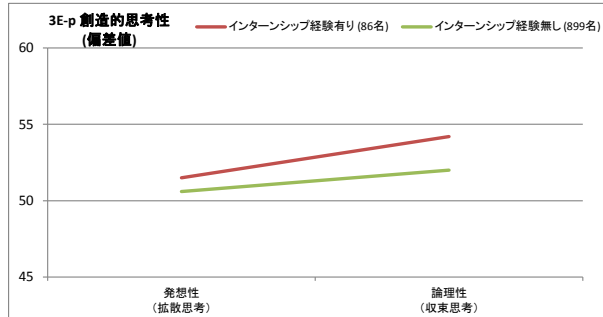
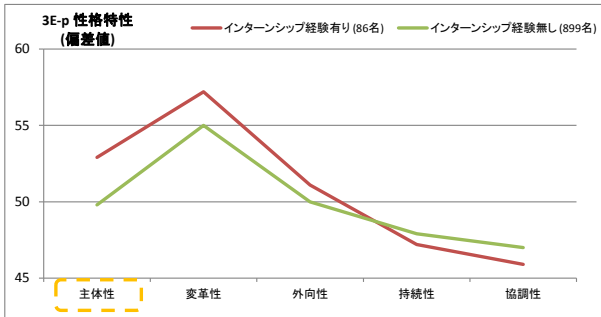
インターンシップ希望学生において、キャリアタイプ指向性では文系は「経営幹部」、理系は「スペシャリスト」が高くなっている。その他の項目では、理系は「持続性」(粘り強くやり続ける)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「合理的に物事を進める」、「知識を深め、探求していく」、「専門性を身につけ、活かす」において、差がみられる。

インターンシップ希望学生は「変革性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」などが高い
 インターンシップ希望学生は、「変革性」(変化を好む)、「意思伝達力」(考えを伝える)、「決断性」(決断が速い)、「理想と現実とのギャップ」などが高い結果になった。キャリアタイプ指向性では「自立」、「チャレンジャー」などが高い。同受検時期の社会人転職希望者に比べて「変革性」、「意思伝達力」、エネルギー量、「理想と現実とのギャップ」などは高く、「協調性」、「論理性」、「対人調和力」、「人付き合い」などは低い結果になった。



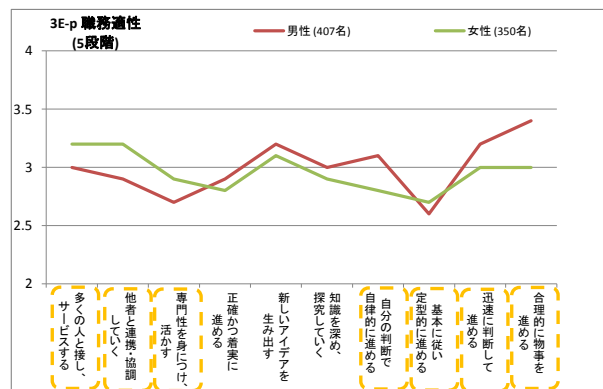
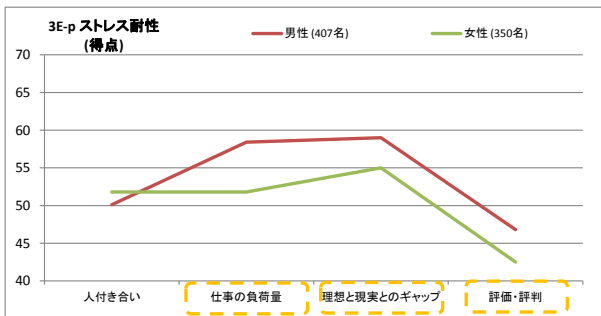
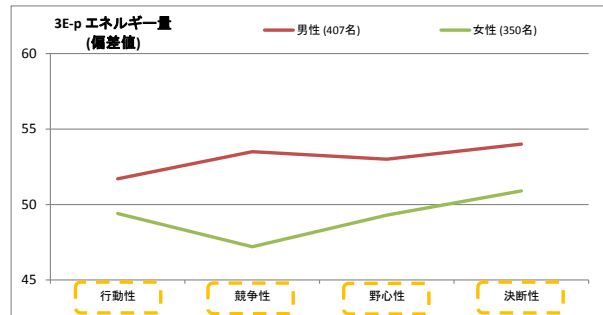
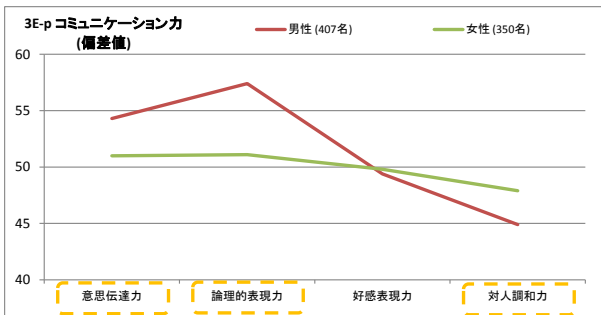
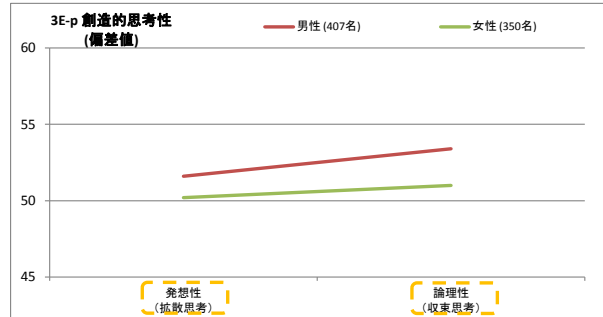
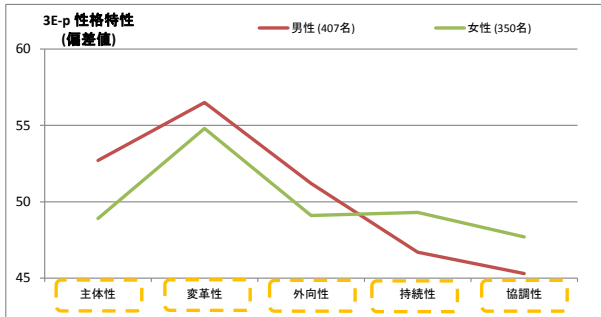
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ経験有りの学生は「主体性」「論理的表現力」「競争性」「野心性」「仕事の負荷量」などが高い
 インターンシップ経験が有る学生は、「主体性」(自ら動く)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「競争性」(相手に勝とうとする)、「野心性」(成り上がろうとする)、「仕事の負荷量」(多くの仕事量や責任ある仕事を受け入れる)が、インターンシップ経験が無い学生に比べて高い結果になった。インターンシップ経験が無い学生は、キャリアタイプ指向性において「私生活重視」、「安定指向」が高い結果になった。



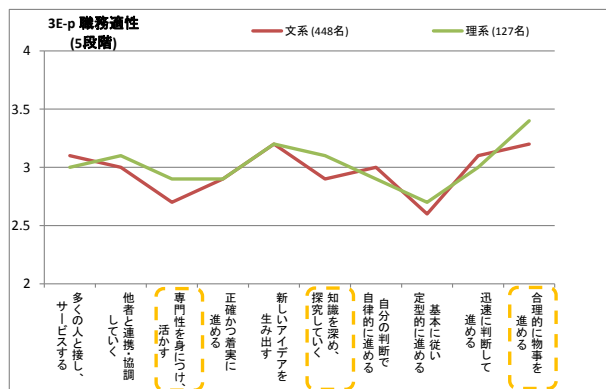
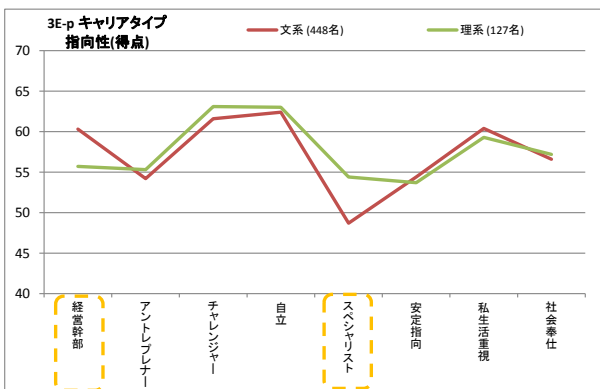
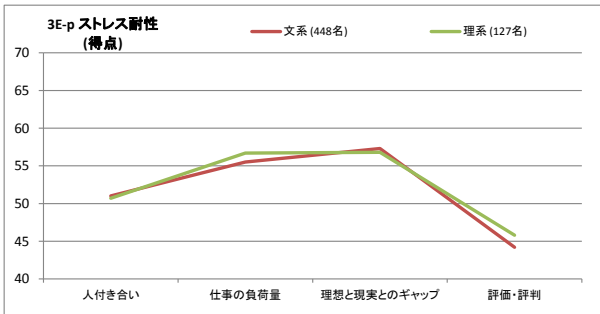
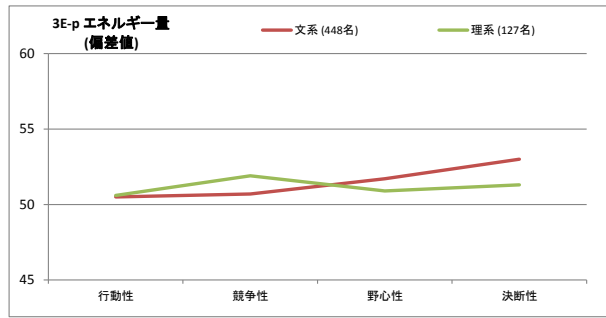
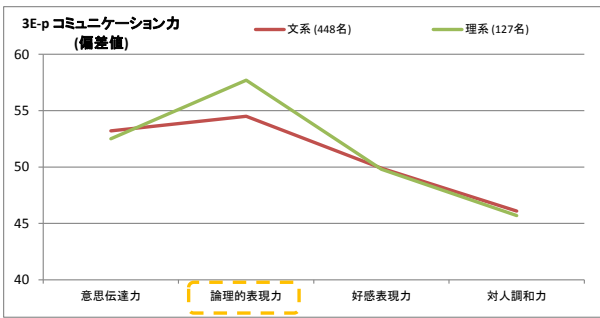
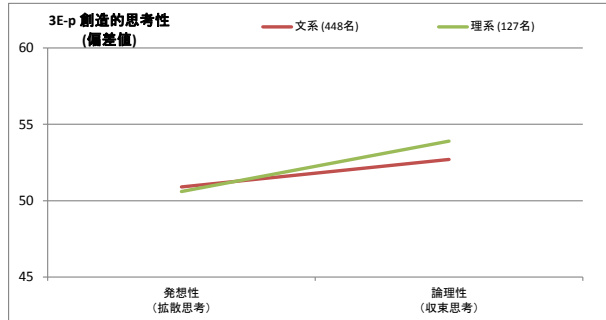
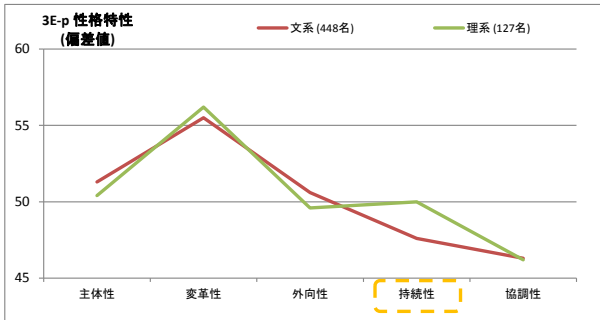
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生の男性は「論理的表現力」「競争性」などが高く、女性は「持続性」「対人調和力」が高い
 インターンシップ希望学生において、男性は「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「競争性」(相手に勝とうとする)、「主体性」(自ら動く)、「仕事の負荷量」、「経営幹部」、「アントレプレナー」などが女性に比べて高い結果になった。女性は「持続性」(粘り強くやり続ける)、「協調性」(周囲との調和を好む)、「対人調和力」(相手に配慮できる)、「私生活重視」、「安定指向」が高い結果になった。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生において、文系は「経営幹部」、理系は「スペシャリスト」などで差がみられる
 インターンシップ希望学生において、キャリアタイプ指向性では文系は「経営幹部」、理系は「スペシャリスト」が高くなっている。その他の項目では、理系は「持続性」(粘り強くやり続ける)、「論理的表現力」(筋道立てて説明する)、「合理的に物事を進める」、「知識を深め、探求していく」、「専門性を身につけ、活かす」において、差がみられる。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。